

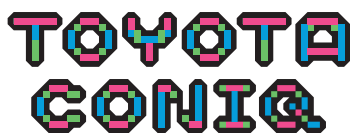
導入事例

インテル® Core™ Ultra プロセッサー 200V シリーズ搭載 AI PC

intel

今後のビジネス環境の変化を見据えて AI 処理に適した PC を全社導入 AI を使いこなすことで業務効率化を推進

PC レンタル導入により、変化への即応性を確保しリスクとコストを最適化



トヨタ・コニック・プロ株式会社

所在地：東京都千代田区神田淡路町 2-101
ワテラスタワー

設立：2021年1月(創立：1949年3月)

資本金：5,000万円

事業内容：トヨタ自動車およびトヨタグループなどのマーケティングサービス・コンサルティング事業、モビリティサービス事業など

<https://toyotaconiq-pro.co.jp/>

YOKOGAWA

横河レンタ・リース株式会社

横河レンタ・リース株式会社

所在地：東京都新宿区西新宿 1-23-7
新宿ファーストウエスト

設立：1987年1月23日

資本金：5億2,800万円

事業内容：電子計測器およびIT機器のレンタル事業、ITインフラの総合的なソリューションを提供するシステム事業など

<https://www.yrl.com/>

ビジネスの現場では、AIの活用が急速に広がりを見せています。資料作成や画像編集、データ分析など、さまざまな業務でAIが当たり前のように使われる一方で、従来のPCでは処理性能が追いつかないという新たな課題も顕在化してきました。

こうした背景のもと、近年注目を集めているのが、AI処理に特化した専用プロセッサー「NPU (Neural Processing Unit)」を搭載したAI PCです。CPUやGPUに加えてNPUを組み込むことで、AI関連の処理をより効率的に行えるようになり、クリエイティブ業務やビジネス業務全般のパフォーマンス向上に貢献します。

トヨタ・コニック・プロは、トヨタのブランディングと新規ビジネス開発の2軸で事業を展開しています。同社はNPUによりAI性能を強化したインテル® Core™ Ultra プロセッサー 200V シリーズを搭載したAI PCを導入。この導入から運用において、横河レンタ・リースは、PCレンタルによりトヨタ・コニック・プロをきめ細やかにサポートしました。

本事例では導入を担当したコーポレートデザイン本部 コーポレートデザイン部 情報システムユニットの福田智久氏と、横河レンタ・リースの原田大輔氏と安部大志氏にお話を伺い、AI PCの必要性や得られた効果、レンタルで導入することのメリットについて紐解いていきます。

Microsoft 365 Copilotの全社導入や クリエイティブ業務の内製シフトで AI PCの活用が不可欠に

トヨタ・コニック・プロは、トヨタの新たなブランド体験や接点をつくる「ブランディング」と、トヨタの技術や販売網を活用して新規ビジネスをつくる「モビリティ・ビジネス」の2つの役割を担っています。ブランディングやマーケティングの領域では、自社メディア「トヨタタイムズ」のプロデュースと運営、車種プロモーション・企業ブランディングなどを手がけています。次世代のビジネスをプロデュースする領域では、「ブランド資産 × 体験価値」による新しい価値創造するトヨタマーチャндаイジング事業や、独自の個性やスタイルを手軽に加えたクルマ「スタイルドカー」を通してクルマで自分らしさを表現する新しいカーライフを実現する「CORDE by <コーデバイ>」など、モビリティから広がる新たなビジネス創造に挑戦しています。

同社がAI PCを導入した背景には、社内のAI活用を活性化する狙いがありました。クリエイティブを重視する同社は、業務の効率化に向けて2025年4月にAIアシスタントの「Microsoft 365 Copilot」(以下、Copilot)を全社に導入し、AI活用を推進しています。福田氏は「2024年10月に社内の幅広い部署から有志を募り、役職者も含めた約120名をCopilotアンバサダーとして先行導入したのが始まりです。Copilotアンバサダーを対象としたトレーニングを、Excel編、



PowerPoint 編などに分けて毎週実施しました。その結果、アンケートで『業務改善につながった』『業務の質が向上した』といった意見が多く寄せられたことから、全社員への導入を決断しました」と語ります。

Copilotの全社導入に際しては、ハンズオンタイプの初心者講習を企画しました。受講希望者が殺到し、複数回に分けて実施しました。現在は実業務に活かすための実践編の講習を企画中で、段階を踏みながらCopilotの活用レベルを高めていく予定です。

「Copilotを導入して『便利になってよかった』で終わっては意味がありません。使いこなして業務に活かすことが本来の目的です。そのために、まずは簡単なところから慣れてもらい、徐々に社員それぞれの業務課題の解決につなげられるようにしていきました」(福田氏)

AI PCを検討したもう1つの背景は、広告制作業務の内製強化です。同社では、広告を制作する際、自動車メーカーや販売店と打ち合わせを重ねながらイメージを共有し、最終的なアウトプットに落とし込んでいきます。以前は担当のビジネス・プロデューサーがクライアントにヒアリングした内容を外部の制作会社に伝える形で、インシャルデザインを制作していました。しかし、外部への制作委託はタイムラグが生じ、イメージの齟齬も生まれやすくなります。そこでヒアリングした内容をもとに制作担当者が内製でインシャルデザインを制作し、クライアントとコミュニケーションを取りながら方向性を固めていくスタイルにシフトしました。

「近年、デジタル系やSNS系の広告商材が増え、新聞や雑誌広告と比べて内製がしやすくなっていることが背景にあります。最終的な制作物を外部のプロに依頼する流れは変わらないものの、インシャルデザインを内製化することで柔軟性が高まり、外注コストを削減でき、社内にノウハウも蓄積されていきます。結果として、デジタル広告の効果最大化にもつながると考えています」(福田氏)

グラフィック性能、処理性能の高さや長時間のバッテリー駆動を評価

Copilotの全社導入や、広告制作業務の内製シフトに取り組む中で、新たな課題が生じました。従来利用していたPCでは、Copilotがスムーズに動かない、Microsoft Teamsで画面共有が滑らかにできないといった症状が出てきました。並行して、Windows 10のサポート終了対応として、2024年の夏から次期PCの検討を始めていた同社は、課題解決に向けてインテル® Core™ Ultra プロセッサー 200V シリーズを搭載したAI PCの導入を決めました。

「現時点で満足できるスペックにとどまらず、次のPC更新のタイミングが来るまでしっかり使用できるものを選定しました。中でも注目したのはバッテリーの持続時間です。当社はハイブリッド・ワークを導入しており、ビジネス・プロデューサーから管理部門まで、社外で仕事をする機会が多く発生します。また、社内でもミーティングが多く、常にPCを持ち歩いて複数の会議室を渡り歩きながら仕事をするのが一般的です。会議室には電源が用意されているものの、大人数では取り合いになりますし、接続の手間もかかります。社員からもバッテリー持ちがいいPCが欲しいというリクエストが寄せられていたこともあり、省電力性能が高いと評価されているインテル® Core™ Ultra プロセッサー 200V シリーズ搭載AI PCを選定しました」(福田氏)

広告制作業務の内製化で、ベースとなるデザインを作成する際は、グラフィック性能も重視されます。マーケティング領域では大量のデータを集計して分析する業務もあります。こうした業務においてもグラフィック性能が前世代から84%向上したインテル® Core™ Ultra プロセッサー 200V シリーズ搭載のAI PCは同社のニーズに合致していました。

「AI PCは制作担当からも好評です。今まではMacでなければできないのではないか？と思われてきましたが、現在はAI PCでも手軽にすぐ作成できるので『ありがたい』『非常に快適』といった声が届いています。また、データ分析を担当するマーケティング担当者からは『性能が抜群にいい』『大量のデータを短時間で分析できるようになった』といった言葉が届いています」(福田氏)

加えて、同社はそれまで10数年にわたりインテル® Core™ プロセッサーを搭載した2 in 1 ノートブックPCを利用してきたことから、既存の複合機や業務システムとの接続がスムーズで、導入後の運用負荷を抑えられることも評価のポイントになりました。

「他社のプロセッサー搭載AI PCも検討対象に上がったものの、実績がなく評価に時間も要することから不安がありました。自社環境と親和性の高いインテル® Core™ Ultra プロセッサー 200V シリーズ搭載AI PCであれば安心感があり、導入後もスムーズに既存環境を使い続けることができると判断しました」(福田氏)



トヨタ・コニック・プロ株式会社
コーポレートデザイン本部 コーポレートデザイン部
情報システムユニット 主任
福田 智久 氏



横河レンタ・リース株式会社
営業統括本部 マーケティング本部
CDセンター 第一課 課長
原田 大輔 氏

故障・破損時の保険対応や 更新サイクルの柔軟性の観点から PCをレンタルで導入

同社はPCの導入に際して、長年にわたり自社購入ではなく、レンタルを採用してきました。これまでは4年周期で、3世代にわたってSIM内蔵型の2 in 1 ノートブックPCを利用してきました。今回はAI活用を積極的に推進することや、Windows 11への切り替えなどの要因も重なり、通常より1年早い3年でのPC更新を決断しました。自社購入ではこのような更新サイクルの変更は容易ではありませんが、レンタルなら急を要する場合でも柔軟に対応ができました。

また、近年のAI技術の進歩は目覚ましく、新しいモデルが次々と登場してきます。そのため、長いライフサイクルでは最新技術への対応が難しくなり、本格化するAI時代に乗り遅れる可能性があります。レンタルなら変化への即応性が高く、最新技術を柔軟に試してみることも可能です。

同社が長年にわたりレンタルを採用している一番の理由は、リスクとコストの最適化です。レンタルPCには代替機交換や動産総合保険などのサポートが含まれ、トラブル発生時には、サポートに対応を依頼できるため、PC管理者の負担は大きく軽減されます。

「常にPCを持ち歩いて仕事をしている当社の場合、故障や破損のリスクが大きくなります。自社購入の場合は修理の手続きが煩雑なことになりますが、レンタルであれば短時間で対応でき、動産保険でカバーできるので安心です」(福田氏)

その他、レンタルPCのメリットは、コストを抑えてスピーディーに調達でき、短期から長期まで希望の期間で利用できることにあります。横河レンタ・リースの原田氏は「AI PCはスペックが高いため、一般のPCより高価になりがちです。レンタルは月額料金制ですので、初期費用の負担を抑えることができます。また、利用人数、利用期間の変化に柔軟に対応できるのも強みです。AI PCをトライアルとして数台導入し、本格導入の際に社内の端末を長期レンタル(3~5年程度)に切り替えるお客様もいらっしゃいます」と語ります。

PCレンタルサービスの中で、横河レンタ・リースの強みは手厚いサポート体制にあります。カスタマー・サポートセンターを自社で構え、トラブル発生時には専任サポートがスピーディーに対応します。横河レンタ・リースの安部氏は「お客様からの多様なニーズに応えるため、専任のサポート体制を敷きながら、営業担当者もサポートセンターを補助する形で漏れない対応をしています。長期レンタルの場合、契約の後半ほど故障が出やすくなる傾向があるので、そのような場合でも素早く対応できるように心がけています」と説明します。

Copilotをストレスなく利用でき オンライン・ミーティングも快適に

同社は、2025年8月にインテル® Core™ Ultra プロセッサ 200V シリーズを搭載したAI PCを予備分と合わせて約800台導入し、利用を開始しました。プロセッサは性能と消費電力のバランスを考慮してインテル® Core™ Ultra 7 プロセッサを採用し、メモリーは32GB、



横河レンタ・リース株式会社
営業統括本部 西日本営業本部
中部営業部 第一課 主任
安部 大志 氏

SSDは1TBを搭載した14型のノートブックPCを選定。機種は管理負担を軽減するために1種類に限定し、全社員に同一メーカー同一モデルのPCを配布しています。

従来PCと比べて大幅に性能が強化されたAI PCの導入により、Copilotをストレスなく利用できるようになりました。20時間以上のバッテリー寿命を実現しており、終日の外出でも電源を持ち歩く必要がなくなっています。AI PCを使ってみて福田氏が特に印象に残っているのは、Teamsによるオンライン・ミーティングの快適さでした。

「カメラの能力向上や、CPU、GPUの性能強化もあると思いますが、映像処理や音声処理にAIが効果的に働き、映像が滑らかで画面もきれいです。おかげさまで、Teams会議のストレスがなくなりました」(福田氏)

メリットはオンライン・ミーティングの快適さだけでなく、アプリ起動はもちろんのこと、Copilotを利用した際の回答の速さやデータの読み込み速度でした。「インテル® Core™ Ultra 7 プロセッサーは、専用NPUを搭載しており、AI推論をCPUやGPUから分離して処理していることから、レスポンスが速いのに驚きました。企画書の作成などにCopilotを常に活用していますが、処理速度の向上によりストレスなく作業がはかどります。今後、AIを活用した画像生成や動画生成が一般化し、ローカル環境で動かす際にさらなる差が生じると確信しました」(福田氏)

AI活用の活性化とセキュリティ強化を継続

AI PCの導入でさまざまな課題を解決した同社は、今後はさらなるAI活用を推進していく方針で、Copilot以外のAIアシスタント製品や、AIエージェントの導入に向けてPoC(概念実証)を計画しています。

一方、AI PCで膨大なデータをより簡単に扱えるようになったからこそ、セキュリティ強化という新たな課題に向き合う必要性を感じています。同社の場合、機密性の高いデータを扱います。AI処理を端末側で完結できるAI PCは、機密データを外部に送信する必要がないことから、クラウドサービスを利用することが多い従来のPCと比べてセキュリ

ティー面での優位性はあります。だからこそデバイスレベルのセキュリティーはより重要性を増すことから、インテルに対してもさらなる強化に期待を寄せています。

「AIとセキュリティは今後の大きなテーマです。私たちもセキュリティー対策に多くの投資をしていますが、引き続きプロセッサーを起点としたセキュリティーの強化をインテルと一緒に進めていきたいと考えています」(福田氏)

インテル® Core™ Ultra プロセッサー 200V シリーズ搭載のIntel vPro® プラットフォームには、ファームウェアやハードウェア・レベルでのセキュリティー、暗号化、カーネル保護、AIによる脅威検出などの機能があり、デバイスレベルで重要なデータを保護しています。インテル® Core™ Ultra プロセッサー搭載AI PCは、重要なデータを扱う業務でも安心してお使いいただくことができます。



インテル® テクノロジーの機能と利点はシステム構成によって異なり、対応するハードウェアやソフトウェア、またはサービスの有効化が必要となる場合があります。実際の性能はシステム構成によって異なります。すべての条件下で絶対的なセキュリティーを提供できるコンピューター・システム、製品、コンポーネントはありません。一部のインテル® Core™ プロセッサーで利用できる内蔵セキュリティー機能を使用するには、対応するハードウェアやソフトウェア、サービスの有効化、インターネットへの接続が必要となる場合があります。結果は、システム構成によって異なります。詳細については、各 PC メーカーまたは販売店にお問い合わせいただくか、<https://www.intel.co.jp/vPro/>を参照してください。

Intel、インテル、Intel ロゴ、その他のインテルの名称やロゴは、Intel Corporation またはその子会社の商標です。その他の社名、製品名などは、一般に各社の表示、商標または登録商標です。

インテル株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-4-1 丸の内永楽ビル 25 階
<http://www.intel.co.jp/>

©2026 Intel Corporation. 無断での引用、転載を禁じます。
2026年1月

368070-001JA
JPN/2601/PDF/SE/MKTG/TK